

アセアン向け省エネ研修（ECAP17）を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けて、2018年11月にアセアン10カ国政府の建築物省エネ基準（BEC: Building Energy Codes/GBC: Green Building Codes）関連部門の担当者及びアセアンのコーディネータ（ACE:ASEAN Centre for Energy）を対象に、以下の諸項目を目的とした研修を行いました。

- (1) ZEB推進に向けた日本の取組状況への十分な理解を踏まえ、ASEAN10カ国における「ZEB Family Concept」の普及促進を図る。
- (2) 具体的にはAEA（ASEAN省エネ表彰制度）に新設するZEB Readyサブカテゴリーの評価基準を作成し、その動きを後押しする。同時に、AEAの評価基準及び最終審査方式を改善し、応募件数の更なる拡大を目指す。
- (3) BEC/GBCの普及促進に資する知識・経験等の共有と国毎の課題遂行に向けた意見交換を行う。



講義（ECCJ）



現場見学



グループ討議



各国最終発表

2018年11月5日～9日の5日間に実施された研修の概要は以下の通りです。

- (1) 日本におけるZEB推進状況の講義、優秀事例の現場見学、日本基準の国際スタンダード化の動きの紹介等を行いました。昨年に引き続きベンチマーク制度推進状況の講義は、同制度を導入しようとしている諸国（タイ、フィリピン等）にとって時宜を得た内容との評価でした。
- (2) AEA体系内に組み込むZEB Ready選考基準を検討した結果、次の①、②の組み合わせの中から各国事情を考慮して選択することとなりました。
  - ① 省エネ率を算定するための基準値（ベースライン）は、想定可能な選択肢(複数)の中から各国の事情に即した最適ケースを選択する。
  - ② ZEB Ready認定時の基準省エネ率は、日本の値を緩和した案も選択肢とする。  
(例えばZEB Readyは日本の▼50%に対し▼40%)
- (3) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会(JASE-W)の活動の中から、ASEANZEB推進ワーキンググループの諸活動が紹介されました。また、ZEB推進上の実務的なアドバイスや、日本の国際規格化の動きに対するASEAN諸国への協力要請等がなされました。結果、JESE-Wの活動を通じ、日本・ASEAN間の連携強化に繋がりました。
- (4) その後の情報交換の中で、ASEAN側に、BEC/GBCそのものの強化に向けた更なる協力を日本に要請したいとの意向がある点が判明しています。この点を踏まえ、来年度以降は、今回の成果のフォローとともに、BEC/GBCについても新たな観点から重点的に取り組んで行くことを考えます。